

上越交響楽団

第11回定期演奏会

指揮 宮越 隆
独奏 服部 隆司



日時 昭和54年4月1日(日)P.M.2:00

会場 上越文化会館

- 主催 上越交響楽団
- 後援 上越市教育委員会 新潟日报社
BSN新潟放送 上越音楽文化協会

*連絡先=上越市住吉町78 古海法雲方 ☎43-2726

★★★★プログラム★★★★

指揮 宮 越 隆
独 奏 服 部 隆 司

「Die Zauberflöte」 Ouverture K. V. 620

歌劇「魔 笛」序曲

Mozart

モーツァルト

Concerto pour Violoncelle No.1 a-moll op.33

チェロ 協奏曲第1番 イ短調 作品33

Saint-Saëns

サン＝サーンス

——休 け い——

Symphonie Nr. 6 F-Dur op. 68

交響曲 第6番 ヘ長調 作品68 「田 園」

Beethoven

ベートーヴェン

I Allegro ma non troppo

田園に到着した喜び

II Andante molto mosso

小川のほとりにて

III Allegro

村人の集い

IV Allegro

嵐

V Allegretto

牧人の歌、嵐の後の悦ばしき感謝の情感

★★★★プログラムノート★★★★

歌劇「魔 笛」序曲

(ヴァイオリン 小林 亮太)

「魔笛」は、モーツァルトにとって最後のオペラであり、ドイツ語の歌詞で書かれた唯一の純粋なドイツオペラである。モーツァルトはこの曲を1791年の夏、数カ月の間に書き上げた。そして、その年の9月30日に初演を行なって成功を収めるが、この曲の完成のための無理がたたってか、彼は二度と立つことのできない病床につかねばならなかった。彼が、毎晩この歌劇の上演を空想のうちに追ったという涙ぐましい逸話が伝わっている。

序曲は、アダジオの序奏とアレグロの主部からなる。序奏は、3本のトロンボーンと他の全楽器が強奏する宗教的で厳かなファンファーレで開始される。これに続くアレグロの主部は、コツコツと練磨するような律動的な第一主題に始まり、清浄な愛を表わす優しい第二主題に受け継がれる。

これらの主題は、フーガ的に取り扱われ、展開部や再現部においても間断なく活用されて、殆んど全曲を一貫する。

曲は、短いアダジオの序奏主題をはさみ、展開部にはじまり再現部、そして力強いコーダへと進むのである。

チェロ協奏曲第一番

(チェロ 伊野 義博)

サン＝サーンスの二曲のチェロ協奏曲のうち、今夜は第一番イ短調作品33をお贈りいたします。この曲は大きく三つの部分に分かれてはありますが、全体が一楽章形式をとり、曲がとぎれることなく演奏されるようになっております。1873年、パリ音楽院でオーギュスト・トルベックの独奏によって初演され、曲はこの初演者にささげられました。

さて、今夜の独奏者服部先生は、東京芸術大学を卒業され、しばらく演奏活動をされた後、2年程前より東本町の実家へもどられ、新大や高田高校で後輩の指導に情熱をもやされている方です。先生を紹介するには、まず酒の話は欠かすことができないでしょう。心から酒を愛しておられ、特に三和村の雪中梅には目がなく、お宅へおじゃますると必ずごちそうになることができます。かといって、飲んべえというわけでもなく、飲みすぎてドブへ落っこちたり、電柱へぶつかったりすることは、一度もないようです。(?)

また、温泉が好きな人でもあります。どちらかといえば、田舎の一軒しかないひなびた鉱泉という感じがびったりな人です。

酒、温泉とくれば、あとは花嫁さんでしょうか。勤務先ですばらしい美人(?)に囲まれているにもかかわらず、なかなか本命がみつからないようです。今日の演奏を聞かれて「この人ならば」と思われた方がありましたら、ぜひよろしく願いいたします。

内にすばらしい情熱を秘めた若き演奏家のサン＝サーンスを心ゆくまでお楽しみ下さい。